

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
（分担）研究報告書

神経変性疾患の神経病理に基づく疫学研究（疫学神経病理）

研究分担者 村山 繁雄 東京都健康長寿医療センター部長

研究要旨

高齢者ブレインバンクの過去 11 年間に、518 例の連続登録例の全身を抗 シヌクレイン抗体免疫染色で評価し、1/3 の登録例に陽性所見を認め、発症者はそのうちの 1/10 であることを明らかにした。

A．研究目的

パーキンソン病をレビー小体病ととらえ、高齢者における臨床病理対応を行う。

B．研究方法

高齢者ブレインバンク連続登録例の脳を含む全身を、抗燐酸化 シヌクレイン抗体免疫染色で検討し、要請頻度、分布、臨床症状との対応を明らかにする。
（倫理面への配慮）
本研究は所属施設倫理委員会承認済みである。

C．研究結果

高齢者の1/3に、体のどこかにレビー小体病理を認め、うち1/10が臨床症状を呈していた。最好発部位は、中枢は嗅球、末梢は交感神経節で変わらなかった。胃食道接合部の陽性率は、レビー小体病理の進展と相関がみられた。

D．考察

他の老化関連変性疾患と同じで、パーキンソン病も、発症前、極初期、臨床パーキンソン病に分類可能と思われる。
発症前パーキンソン病は高齢者フレールの一因である可能性がある。

E．結論

パーキンソン病は発症者の9倍近くにあたる発症前、極初期症例を含み、これらは高齢者フレールの一因である可能性がある。

F．健康危険情報

なし。

G．研究発表

1. 論文発表

Murayama, S., Saito, Y.: Epidemiological pathology of Lewy body disease in aging. Neuro pathology review, in preparation.

2. 学会発表

Murayama, S.: Annual report of Brain Bank for Aging Research. 2019 AAIC, Chicago, July, 2019

**H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）**

1. 特許取得
なし。

2. 実用新案登録
なし。

3. その他
なし。